

新燃岳 2025年9月3日噴火の火山灰構成粒子の特徴

新燃岳 2025年9月3日噴火の火山灰構成粒子はこれまでとほぼ同様であり、本質物と考えられる光沢を有する黒色～暗褐色発泡ガラス片を数%含む。

霧島山新燃岳では、2025年6月22日以降、断続的に火山灰を放出する活動が継続している。9月3日には、火口縁上2,300mの噴煙を伴う噴火が発生した。

観察した試料は：

- ① 鹿児島地方気象台が、同日15:35頃に新燃岳西南西約3kmの気象庁新床GNSS観測点で採取した火山灰 (898 g/m²)。
- ② 鹿児島県立出水高等学校の成尾英仁氏が、同日18:30頃に新燃岳南西約6kmの丸尾温泉で採取した火山灰 (289 g/m²)。

火山灰の粒径は①②とも礫 (>2 mm) を含まず粗粒砂 (1 mm) 以下である。これらの火山灰を蒸留水で水洗後、125–250 μm 及び 250–500 μm に篩い分け、キーエンス社のデジタルマイクロスコープ (VHX-8000) で観察した。

【観察結果】

火山灰構成粒子は、斜長石や輝石などの遊離結晶片 (C)、緻密でやや透明感のある淡色粒子 (LP)、緻密で黒色や灰色を呈した不透明な岩片 (DL)、光沢を有する黒色～暗褐色発泡ガラス片 (DG)、熱水変質を受けた粒子と考えられる白色不透明岩片 (WL)、赤色に酸化した緻密な岩片あるいは発泡痕のある粒子 (RL)、ガラス光沢を有する緻密な黒色～暗褐色岩片 (GL)、淡色～無色の発泡ガラス (WG) が含まれていた (図 1)。これらの火山灰構成粒子の種類は 2025 年 7 月以降の噴出物と同様である。

光沢を有する黒色～暗褐色発泡ガラス片 (DG) の割合は数%であった。赤色酸化粒子 (RL) は 1 割程度含まれている。今後も新燃岳の動向に注視して火山灰構成粒子の変化を把握し続ける必要がある。

参考資料：

- ・ [新燃岳 2025年7月2～4日噴火の火山灰構成粒子の特徴](#)：2025年7月8日，産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳 2025年7月5～9日噴火の火山灰構成粒子の特徴](#)：2025年7月11日，産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳 2025年7月2～4日噴火の火山灰構成粒子の鉱物・ガラス化学組成](#)：2025年7月14日，産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳 2025年7月22日に採取された火山灰の構成粒子の特徴](#)：2025年8月1日，産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳 2025年8月10日噴火の火山灰構成粒子の特徴](#)：2025年8月19日，産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳 2025年8月28日噴火の火山灰構成粒子の特徴](#)：2025年9月4日，産総研地質調査総合センター

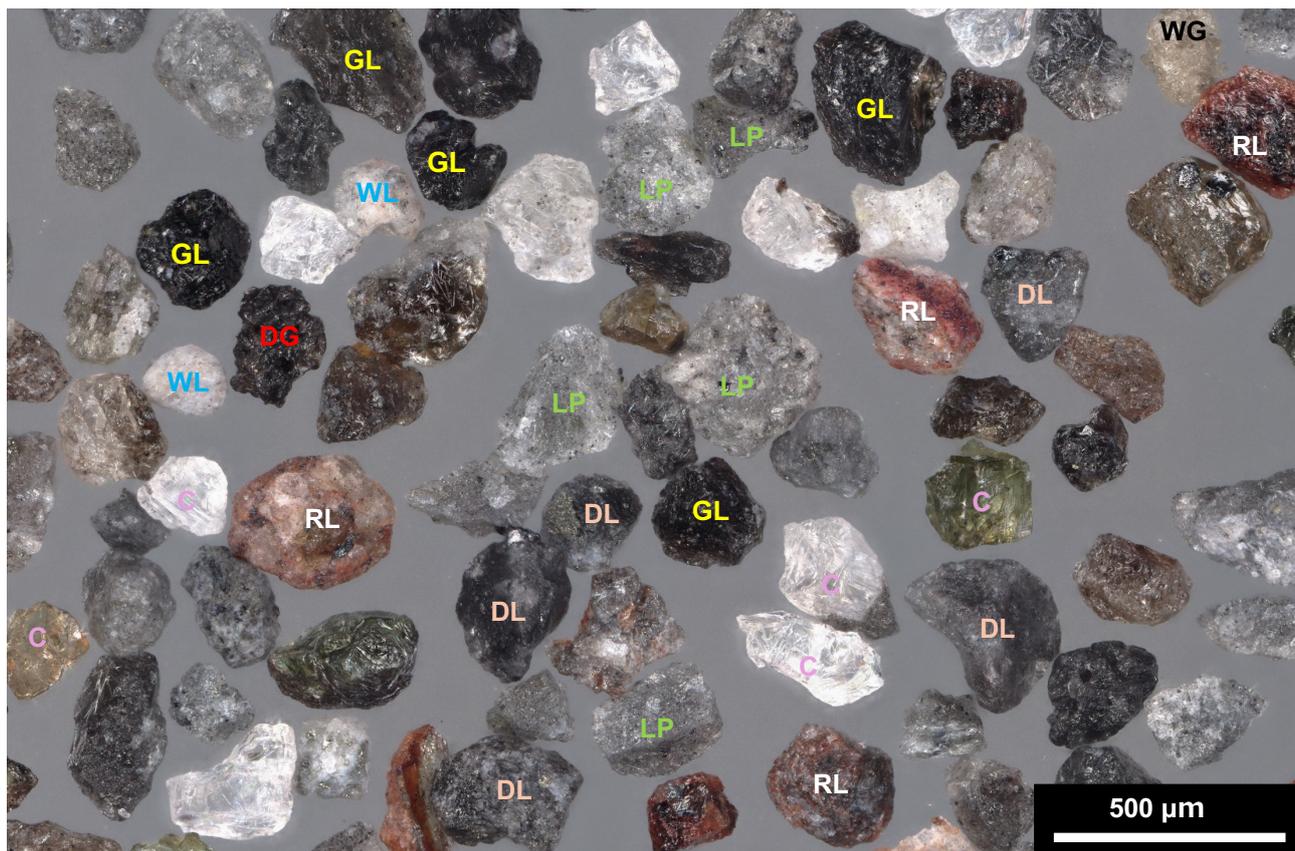


図1. 2025年9月3日に採取した火山灰の構成粒子写真（粒径 125–250 μm）. 鹿児島地方気象台採取. 分類も示す（略号については本文を参照のこと）.